

平成30年度 第1回 松戸市子どもの未来応援会議 会議録（要旨）

1. 日時 平成30年8月1日（水） 午前10時～午前11時30分
2. 場所 松戸市衛生会館 3階大会議室
3. 出席者 <委員> 13名
阿部委員、宮島委員、湯浅委員、和座委員、赤石委員、
沖委員、石井会長、坂野副会長、山田委員、郡委員、
町山委員、久保木委員、胡内委員

<松戸市>

子ども政策課、子育て支援課、子どもわかもの課、幼児保育課、
行政経営課、政策推進課、商工振興課、健康福祉政策課、
生活支援一課、住宅政策課、教育企画課、学務課、指導課、
保健体育課、教育研究所、子ども家庭相談課
(事務局：子ども家庭相談課子どもの未来応援担当室)

4. 傍聴者 6名
5. 議題 (1) 「松戸市子育て世帯生活実態調査報告書」について
(2) 「松戸市子どもの未来応援対策について（中間報告）」、「松戸市
子どもの未来応援対策について（中間報告）対応表」について
(3) 松戸市子どもの未来応援プランの進捗について
(4) その他

<要旨>

- (1) 「松戸市子育て世帯生活実態調査報告書」について

(会長)

「松戸市子育て世帯生活実態調査報告書」については、松戸市から首都大学東京子ども・若者貧困研究センターに分析をお願いしている。

本日は、センター長を務めている〇〇委員から最終報告として説明していただくが、その前に事務局から、資料1「松戸市子育て世帯生活実態調査分析中間報告の

変更対応表」について説明をいただきたい。

(事務局)

資料 1 松戸市子育て世帯生活実態調査分析中間報告の変更対応表を用いて説明

(会長)

ただいまの説明について、意見・質問があったらお願いしたい。

無いようなので、次に〇〇委員から説明をお願いしたい。

(委員)

資料 2 松戸市子育て世帯生活実態調査報告書を用いて〇〇委員より説明

(会長)

中間報告をまとめるにあたり、調査の方も中間的な状況の下で議論してきたが、今回食の支出状況や外国にルーツを持つ世帯など新しいデータもお示しいただき、またクロス集計をかけて深掘りしていただいて、初めて知る情報もある。ただいまの説明について、意見・質問があったらお願いしたい。

(委員)

今さら聞けない基本的なことを聞いた方が、この価値のある調査をより理解できるかと思う。有意差があるかないかということで星がついているが、星が1つのものと2つ、3つあるものがある。どのくらいの目安で星が1つになるのか、2つ、3つになるのか分かった方がより理解できるのではないか。Xというものもあったが、有意差がないとみてよいのか。

もう1つ、不明は母集団に含めないということであった。今回新たに示された項目について、他の調査と比較してみることもあるかと思うので、注意すべきことを教えていただければと思う。

(会長)

〇〇委員どうぞ

(委員)

3つの星は1%有意水準、2つは5%、1つは10%水準である。説明すると1%水準の場合は、例えばA群とB群に差がない確率が1%以下である。だから99%の場合がA群とB群に差があるということである。星が1つの場合は10%水準で、A群とB群の差がない確率が10%以下であり、この場合5%以上10%以下となる。

だから 90%の場合は差がないだろうということである。でも 10%の可能性は残しているのも、もしかしたら一緒である可能性もある。Xがついているということは、10%以上の確率で2つの差がないということを証明している。だが確実には言えないということで、Xを統計的には有意でないという言い方をする。

それから無回答の扱いだが、無回答を入れるか入れないか非常に悩むところで、どちらが正しいということもない。無回答が非常に多いものを、例えば所得を聞くと無回答が30%ぐらいあるが、その場合無回答を入れた集計ではあまり意味がない気がするので、抜いた方がよい気もするが、今回全部入れる方針としている。

他の調査と比較する場合には、他の調査の方で無回答を入れているか入れていないかによって計算しなおす必要がある。

(会長)

他にいかがか。

(委員)

予防接種のことだが、132ページから書いてあり、見ると困窮層の予防接種の任意接種、定期接種が有意差をもって受けていないということがみえてくる。その理由として多忙と出ているが、我々の方で予防接種を受けてもらうように働きかけることも大切かと思うのだが、どのあたりをプッシュすれば効果的だとか統計的にみえることがあるか。

(会長)

この調査結果に限らず、もしこれまでなされた調査の中で、一般的に言えることがあれば併せてご説明をお願いしたい。

(委員)

今回、松戸市の予防接種の未接種の理由で、比較的「多忙」が多かった。他の自治体の調査では、「予防接種を知らなかった」とか「費用が掛かると思っていた」などの回答もある。予防接種のお知らせがタイムリーに届くか、それとも、母子手帳を渡した時に10年後にやってというのでは違うと思う。費用が掛からないということが周知徹底されているか、どこに行けばいいのかなど周知されていると効いてくる場合もあるかと思う。松戸市の場合は、理由としては費用という意見は少なく、多忙や子どもの健康状態という意見が多いので、窓口などをより多くするなどの施策が有効なのではないかと思う。

(会長)

他にいかがか。

(委員)

すごく色々な学びがあるのではと思っている。

表記で違和感があったのでお聞きしたい。例えば、11 ページ就労状況を聞いている時に、専業主婦という言葉が入っているが、ひとり親世帯で専業主婦というのはいかがか。父親の方は無職（専業主夫）となっているが、これは質問がそのようになっていたのでそのままなのか確認したい。

あと、子ども食堂の利用意向が出ていたが、世帯別で困窮層の方が利用意向が少し低いのはどのような理由なのか気になった。何か示唆するものがあれば教えていただきたい。

(委員)

11 ページの専業主婦については、私も違和感はあるが、そのようになった。無職でもよかったかなとは思う。

子ども食堂については、データとしての結果であって、なぜそうなのか理由はわからないというのが正直なところである。

(会長)

むしろ、運営している方から何か補足的な情報を後でいただけるかもしれないと思っている。

もしよろしければ、時間が押してきているので、次の議題に進めさせていただきたい。

(2) 「松戸市子どもの未来応援対策について（中間報告）」、「松戸市子どもの未来応援対策について（中間報告）対応表」について

(会長)

事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

資料 3 松戸市子どもの未来応援対策について（中間報告）

資料 4 松戸市子どもの未来応援対策について（中間報告）対応表

参考資料 松戸市子どもの未来応援プラン（松戸市子どもの貧困対策計画）
を用いて説明

(会長)

ただいまの説明について、意見、質問があったらお願いしたい。

(委員)

要望でもよいか。今の説明にあった柱について、55 ページ、基本目標を実現するための施策の体系というところで、構成はとても納得感がある。②に支援につながるというところで、「当事者視点に立った情報内容の見直し」などが掲げられている。今、紹介があったように、中高生の居場所作りや小学生のための子どもの居場所ガイドなど、とても大事なもので是非広めていただければと思うのだが、スマホのQR コードを使って見たが地図とリンクしていない。当事者目線という時には、本人たち、新しく引っ越してきた方や先ほど情報に上手く繋がれていない人の話もあったと思うが、外国にルーツのある方やなかなか周囲と付き合いがなく友達からの情報が入ってこない方は、ぐるナビなどと同じように地図から探す。自分の家の周りに何があるのかが一番大事だと思う。歩いて行ける範囲に何があるか知りたいと思うので、こうしたものを重ねて行って1つの地図に落とし込んだものがあるというと思う。先ほどの進捗管理表を見ると、子ども食堂の情報を掲載するとのことだが、これも子ども食堂の情報だけ掲載するとそのマップだけでアクセスする人はなかなかいないので、児童館の情報やKIDS ルームの情報、青少年会館の情報などをピンで立てて、その中に子ども食堂の情報があったり、その他さまざまなNPOの居場所作りの情報があればよいのではないかと。市民的に言うと、それが行政でやっているかNPOでやっているかは関係がない。アクセスできる場所にアクセスできる場所があるかどうかの方が大事なので、行政的には誰がやっているかは大事になるが、できれば乗り越えていただきたい。

先ほどの調査結果を見る限りでは行政のホームページに載せても見ないので、学校の通知でURLを載せてもらうとかホームページができたとか学校のお便りに入れてもらうと、そこから行政のページに行けるということがデータでもわかるので、トータルに見ながら当事者目線に立った情報内容の見直しを進めて欲しい。これは要望である。

とてもよいものが出来ていくと思うので、中高生の居場所作りにしろ、なんにしる是非、必要な子どもに情報が届くように、工夫をしていただきたい。

(会長)

おそらく今、指摘いただいたことは、最終報告に向けてのひとつの重要なご指摘であると考えます。いろいろ松戸市は施策を打っているが、具体的に落とし込んだ実際の物かどうかということを見ていくことによって、中間報告で求めているものがリアルに現場で生きてくることにもなるのではないかと。

他にいかがか。

(委員)

基本的なことで2点聞きたい。基本的なことだが全体に関わってくるのではないかと思っていて、12ページと54ページである。

12ページ、計画の対象について、「おおむね18歳未満の子どもとその家庭を対象とします。」とある。児童福祉法とかで18歳未満を子どもとするという定義があるが、「おおむね」と書いてあることに意味があるのかなと思って下の印を見ると、「困難を抱える子どもはもちろんのこと広くさまざまな困難を抱える可能性がある方を広く捉える」とある。対象を広くとると、年齢的にも18歳を超えてもその年度の3月31日までは児童扶養手当等は支給対象になっているし、社会的擁護は20歳まで、22歳まで支援対象にするという流れがあるので、そのようなことを含めての表現なのか、あるいは別の意図があるのか、「おおむね」の意味を聞きたい。

もう1つは、54ページの基本目標というのがあり、基本目標の3つについては、私はとてもいいなと思っている。特に、「子どもの権利が尊重され」というところから始まり、家庭でもその他でも支えるとなっている。子どもの利益と家庭の利益が相反する場合もあるので、その部分も含めて入っているかと思うが、しかも地域の特性を活かして支えるとある。ここは何の異存もなく素晴らしいと思う。しかし、その下の、「将来の夢がある子どもを増やします」について、この目標で、例えば「夢ってなんだろう」と改めて考えるといろいろ難しい問題はある。それを適宜、聞かせて欲しいということではなく、基本目標と目標との関係性がどのように位置づけられているのか。例えば、基本目標を実現するために個々の具体的な施策がある。そのイメージとかを皆さんと共有するための印象ある言葉だとか、そのような意味で夢あるというフレーズとしておかれているのか、どのような位置関係で基本目標と具体的な数値目標の関係を定めているのか聞きたい。

(事務局)

始めに12ページの「おおむね18歳未満という」ところで、「おおむね」をつけた部分だが、児童福祉法の18歳未満の拡大という解釈ももちろんあるし、18歳になったからといってバサッと切るのではなく、やはり広い意味で松戸市の子ども全体を支えていくというところでは、その背景にある家庭の困難というところも含めて支援して支えていくということである。18歳ということで一律に切るのではないというのが、「おおむね」と付けた背景である。そこは委員と同じ認識である。

続いて54ページの目標について、基本目標は先ほど事務局からもあったとおり、上位計画の子ども総合計画のところと同じ認識である。その指標として目標を何にするかは本当に迷った部分でもあった。国の方からもいろいろな指標が出されてい

る中でそれを取り入れるという議論もあったが、それを評価していくのも難しいという判断になり、今回アンケート調査でとった「夢を持つ子どもの割合」ということとした。いろいろな背景があり困難を抱えている子どもが少しでも前向きになれるような姿勢をとれる指標はないかということで目標にしたところである。

(委員)

I、II、IIIがどのくらい実現しているかということの指標という言葉があったがそのように理解すればよいのか。

(子どもわかもの課)

補足すると、こちらの計画書で端折っている部分がある。子ども総合計画の基本理念の部分に、「子ども力でつながる未来」という言葉と「子ども・家庭・地域がそれぞれに力を発揮しつながら、全ての子どもの育ちが支えられ、夢と希望にあふれた子どもが活躍できる街づくり」という、より上位の理念を掲げていて、先ほど指標という部分では、その部分も踏まえてより大きな社会的な目標として掲げられている部分も補足させていただければと思う。

(委員)

57 ページを見ると、支援という形で我々の方で子どもに対してまた、いろいろな形で家族に対して、家庭に対して支援していくことは非常に大切だとは思ふ。そしてまた支援につながるネットワークを豊かにしていくことも大切なことだと思う。

実は私たち医師会で、まちっこプロジェクトということをやっている教育委員会の人達と一緒にやっている。授業で子どもに「お母さんたちに乳がん検診に行くように言ってね」とか、「お父さんたちがタバコ吸っている人、手あげて」とか言うのと、半分ぐらいあがる。子どもたちに「タバコ一本吸うと20分命が縮まるからね」と話をして、「家に帰ったらお父さん、お母さんに話ししてよ」と伝える。あるいは、認知症の話や命の尊さの話の中で、「もし半年の命となった時にみんなどのように生きたいか」と聞く。具体例として、サザエさんの波平さんが膵がんになったという例を挙げ、みんなでディスカッションし、そのあとみんなに「家に帰って家族とその話しをしてみよう」と宿題を出している。ACP（アドバンス・ケア・プランニング）と最近言われているが、終末期の考え方について家族で話し合ったことがあるかと半年後に聞いた時、取り組みをする前は1%、2%だったが、この取り組みをした後は、20%に上がっていた。実は子どもの力は非常に大きいと思う。子どもからの発信は、社会に対して大きな影響を与えると思う。最近、学会でも取り上げられている。

地域の中で市民一人ひとりが理解を深めて、地域社会全体で子どもの育ちを応援

する意味合いも含まれていると思うが、そのようなベクトルも、子どもの力を信じてあげるといふことも、どこかに入れていただければありがたい。

もう1つは、松戸市だけではなく、民間、医師会も含めてプロフェッショナルとしてのいろいろな専門職の集団や市民の方たちが、一緒になって子どもたちを支えていくネットワークが必要である。応援プランの真ん中あたりに123の事業が書いてありそれぞれの担当課が出ているが、この中で医師会も一緒にやっている事業が、84ページ「育児の情報提供事業」である。「『まつどDE子育て』と連動させた子育てアプリを導入し、プッシュ型の情報提供を行います。」と書いてあるが、「医師会も一緒になりやっている取り組みで、民間のさまざまな機関が一緒になっている」、とどこか見えるような書き方をすると、全体として取り組んでいるように、市民全体みんなで行っているような見方ができるのではないか。

(会長)

今の発言も先ほどの〇〇委員と同様、最終報告を取りまとめていく上で、有益なご指摘と思う。プランはできているが、まだ私たちのタスクとしての最終報告の作成はできていないので、いろいろな意見を反映させていければと思っている。

よろしければ、時間も押しているので次の議題に移る。

(3) 松戸市子どもの未来応援プランの進捗について

(会長)

説明をお願いしたい。

(子ども家庭相談課子どもの未来応援担当室、子どもわかもの課、子ども政策課、教育研究所、生活支援一課)

資料5 松戸市子どもの未来応援プラン進捗管理表を用いて順に説明

(会長)

意見、質問があればお願いしたい。

(委員)

これら各種施策は結局、子どもたちに届くことが重要である。やはり、子どもにとっては、学校がプラットフォームだと思う。そこをどう活かすかは前回も言ったが、スクールソーシャルワーカーだと思う。配置がごくごく一部しかないというところをどう考えるのか。教育研究所と教育委員会と市長部局でやっていただきたい。予算の問題もあり大変だが早急にやる必要がある。これら各制度を、この子にはこの

制度が良いのではないかということや学校の先生ではやりきれないので、ぜひ全国に先駆けてお願いしたいと強く思う。

また、各居場所作り等が進んでいて、このような受け皿ができることは、常盤平で開催した子どもの未来応援講演会を〇〇委員と一緒にやり、子ども食堂の代表も来て言っていたが「いろんな場所で、そこでいろいろ気づいてそれをフィードバックするところ」だと。六実地区の学習支援では、スクールソーシャルワーカーの方が間に入り動いてくれるから「非常に助かる、効果的な動きが出ている」と言っていた。いずれにしても、これだけの施策をどう活かすかというところを是非やっていただきたいと思う。意見である。

(会長)

こちらも、最終取りまとめに反映できるのではないかと思います。

(4) その他

(会長)

お手元の資料の中に子ども食堂に関する通知があるが、補足することがあれば一言だけお願いしたい。

(委員)

参考資料 子ども食堂の活動に関する連携・協力の推進及び子ども食堂の運営上留意すべき事項の周知についてを用いて説明

(事務局)

今後のスケジュールと今年度の活動について説明

(会長)

私どものいただいたタスクとして、中間報告は最終報告へ格上げするということがある。そこにおいては、皆様方の意見をさらに頂戴して、今日〇〇委員から総括的に報告いただいたように新たに気になる実態もみえてきたので、それなどもしっかり踏まえていく必要があると思う。

また、メッセージというアイデアも今、事務局からいただいたが、委員個々の思いを率直に伝える意味で私は良いのではと思う。それも含めて最後に意見等があったらお願いしたい。

(委員)

そのメッセージに含めるべきかもしれないが、今、虐待が大きな問題となっている。国、都道府県、市町村あげて取り組みを進めなければならない。中核市等においても、児童相談所を設置するということが検討課題に挙げられている。夢を持つということは、夢を断たれないことが是非とも必要なので、命を失うとか親と子が引き離されるとか地域から引き離されることを防ぐことが大事なので、この中にも事業の進捗状況が多かったが、そのあたりも中心に進めていっていただきたい。メッセージにも寄せさせていただく。

(会長)

他にはいかがか。ないようなので、本日の議事は終了する。